

原理に基づく理学療法 (Principle Based Physical Therapy : PBPT)

というメタ理論の提案

米元佑太¹⁾²⁾, 京極真¹⁾

1) 吉備国際大学大学院保健科学研究科 2) 東大阪山路病院リハビリテーション科

キーワード: メタ理論・原理・共約不可能性

はじめに

「どのような理学療法がよい理学療法か？」という問いに対して、われわれ理学療法士はいかに論理的に答えるだろうか。原理的につきつめると、実のところ現代理学療法はこの問いに答えることができない。なぜなら、理学療法はその根底においてメタ理論を欠いているという問題を孕んでいるからだ。理学療法士諸氏にご理解いただくために、順を追って説明しよう。

理学療法士及び作業療法士法は、理学療法の対象を「身体に障害のあるもの」と定めている。本邦の理学療法は黎明期から現在に至るまで、時代の変遷に適応しながら対象範囲を拡大し、専門性を確立してきた。対象範囲の拡大と並行し、理学療法はより良い介入方法を模索してきた。その結果、現在では理学療法に関連した多数の理論や方法が生まれ、臨床と研究が日々深化している。

多様化した理学療法の専門性を整理することなどを目的として、認定・専門理学療法士制度や理学療法士学会が創設され、平成30年度からは分科学会ごとに学術集会在開催されることになっている。このように理学療法は対象者を拡大する一方、領域を細分化することで、大きな発展を遂げてきた。

理学療法士はこのような状況の中で様々な理論や方法、自身の臨床経験などに依拠することで、対象が達成すべき目標を設定し、介入を選択している。しかし、理学療法領域には対象とする領域や理論、方法の多様性から、共約不可能性が生じている。共約不可能性とは異なる理論体系で共通する基盤が存在しない問題である¹⁾。共約不可能性が存在する弊害は、領域あるいは理学療法士ごとに異なる理学療法観が乱立することによって、「どのような理学療法がよい理学療法か？」という素朴な問いに対して、明確な答えが得られない事態に陥ることにある。理学療法士自身が「どのような理学療法がよい理学療法か？自らの答えは自分以外の理学療法士から納得が得られるだろうか？」と問うことで、回答を導くことの困難さが理解できるだろう。しかし、共約不可能性の存在を問題とした理学療法理論は今まで構築されてこなかった。こ

れが冒頭の議論を根底で支える理路である。

したがって、われわれは共約不可能性を解消できる理学療法のメタ理論を構築することにした。メタ理論とは多様な枠組みのあり方や関係を基礎付ける理論を指す²⁾。この機能を有した理論では共約不可能性の成立する条件が解消され、「どのような理学療法がよい理学療法か？」という問いにも答えうると考えられた。

方法

前述のメタ理論の機能から、構築する理論はどのような学問的前提を有する者からも理解が得られる必要がある。このような立場が違っても納得し合える理論を構築するためには、「徹底的な懐疑に耐えること」と『なんでもあり』には陥らないこと」というふたつの条件を満たす必要があることが示されており、これらの条件を満たすものを原理とよぶ³⁾。この条件を満たしながらメタ理論の構築を行うために、本論では理論研究法の一つであるメタ理論工学を用いた。メタ理論工学とは、既存の理論の問題点を吟味することで改善点を明らかにし、新しい理論を構築する方法である²⁾。上記の方針のもと、①全ての理学療法に共通する理路の整備、②理学(physical)=身体についての原理的基礎付け、③上記①、②を統合した理学療法のメタ理論の提示を行った。

説明と同意

本研究は理論研究のため、対象者のプライバシーや人体に影響を与える危険性がない。そのため説明と同意ならびに倫理的配慮に該当する事項はない。

結果

①全ての理学療法に共通する理路

原理的に考えると、実践とは「ある状況と目的のもとで確率的に遂行される」といえる。これを実践の原理とよぶ⁴⁾。理学療法はある状況で実施されているといえる。「“ICUで高齢の脳出血後の患者に対して”理学療法を実施する」や、「“対象者の自宅で両膝関節に人工関節全置換術の既往歴がある認知症を有する対象者に”理学療法を実施する」などが例に挙げられ、理学療法の実施にかかる言葉は全て状況であるとい

える。また、理学療法は対象者がなんらかの状態になることを目指して実施されているため、常に目的を有しているともいえる。実際にはより細やかで具体的な目的が設定されていると想定されるが、屋内移動自立、疼痛軽減、生活機能の維持、在宅復帰、復職、競技復帰などが例に挙げられる。

さらに、事前に有効だと確定した理学療法は存在しないともいえる。それは事前にどれほど有効だと考えられた理学療法だとしても、その遂行中に不確定要素が入り込む余地があるためである。つまり理学療法は確率的に遂行されているといえ、結果は事後的に確認するしかない。

では、状況と目的から完全に独立した理学療法は存在するだろうか。考える限り、そのような理学療法は想定できない。以上のことから、理学療法は例外なく実践であるといえ、実践の原理は全ての理学療法に共通する理路であるといえる。よって本論では、実践の原理を継承することで、「理学療法は、何らかの状況と目的に応じて遂行され、その有用性は事後的に決まる」という命題を設定した。

しかし、この命題だけでは作業療法や看護など、理学療法以外の実践にも当てはまるといえる。そのため、理学療法が常に対象としてきた身体の原理論を定式化する必要があると考えられた。

②理学(physical)=身体についての原理的基礎付け

どのような学問的前提を有する者からも理解が得られる理路を構築するという本論の目的と合致した理路に現象学があった。現象学はフッサールが立ち上げた学問領域であり、その目的は共通理解が得られる思考の始発点を設定することにある。フッサールはこの目的を達成するために、様々な前提に依拠した判断を全て停止し、その確信が成立する条件を明らかにしていくという独自の方法を開拓した。

その後、現象学はハイデガーやメルロ＝ポンティなどによって発展し、身体に関連する知見も多く提示されている。彼らの理路の最も原理的な部分を抽出すると、身体とは主観と客観が同時に成立する場であり、人間の存在可能性の根拠であり、世界と人間を繋ぐ媒体として働き、情状性＝気分と相関的に構成される対象でもある、と再構成できる。本論ではこれらの議論を踏まえながら、お互いの理路を補う形で洗練することで、「身体とは超越論的主観性において気分相関的に構成された媒体であり、それは世界と主体を繋ぐものであると同時に、可能性を担保しつつ制約する構造である」という「身体の原理」を定式化した。

③原理に基づく理学療法

①、②を踏まえると、理学療法は対象の可能性を確保するために実施され、それによって主体のありうる未来をめがけることになる。つまり、主体が選択しうる可能性をひらくことが、従来理学療法が担ってきた、そしてこれからの理学療法

が担っていく実践の特徴であるといえる。したがって、全ての理学療法に通底する目的は「対象の選択可能性を確保すること」であると導出できる。①で例示した理学療法の目的がこの理路から一意に導出可能であることから、様々な場面で設定されている理学療法の目的に当てはまる、メタレベルの目的であるといえる。

以上より、本論では「理学療法とは何らかの状況で、対象の選択可能性の確保を目的として、身体に介入することであり、その有用性は事後的に決まる」と定式化し、それを「原理に基づく理学療法(Principle Based Physical Therapy : PBPT)」と命名した。

考 察

PBPTによって、「どのような理学療法がよい理学療法か」という問いに対し、「対象の選択可能性を確保するという目的の達成に貢献できた理学療法がよい理学療法である」という回答を導出できるようになった。これはPBPTが、全ての理学療法が状況と目的に応じて確率的に遂行されること、そして原理的な身体論を構築することで、多様な対象、理論、方法、そして目的に関する認識の違いを克服する視点を提供したからである。これらのことから、PBPTはあらゆる理学療法に対して価値判断の基準を提供でき、共約不可能性を解消する可能性を担保したメタ理論であると考えられた。PBPTは多様なフィールドで実施されている理学療法に例外なく妥当すると考えられることから、従来は暗黙の内に困難だと想定されていた理学療法間の比較検討が可能になり、これまで実施されてきた理学療法の可能性を十全に引き出し、より良い発展を推進する機能を有しているといえる。

PBPTの原理性を吟味するには、「状況や目的に全く無関係な理学療法は存在するか」などと問うと良い。その結果、PBPTの理路が例外なく理学療法に妥当すると確認できれば、原理性のある理路であることが判断できる。このように、理論自体の評価方法を組み込んだ所にもPBPTの利点がある。

以上により、PBPTは領域や対象、用いる方法の違いなどに関係なく、過去、現在、そして未来にわたって理学療法領域を基礎付けるメタ理論であるといえる。

文 献

- 1) 京極 真：作業療法の超メタ理論の理論的検討 プラグマティズム、構成主義、構造主義の比較検討を通して。人間総合科学会誌 3：53-62, 2007
- 2) 西條剛央：メタ理論を継承するとはどういうことか？ーメタ理論の作り方。構造主義研究 1：pp11-27, 2007
- 3) 京極 真：医療関係者のための信念対立説明アプローチーコミュニケーション・スキル入門。誠信書房, pp13-15, 2011
- 4) 京極 真：信念対立説明アプローチ入門。中央法規出版, pp58-61, 2012